

<p>教育・保育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も友だちも大切にできる心の育成 ・学びの芽の育成 ・自分の可能性や能力を十分に発揮できる力の育成

<p>園の重点項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、安心して過ごせる環境の中で主体的に遊び、人とかかわる中で、自分も人も大事にできる心を育てる(①・②・③・④・⑤)

<p>令和6年度 重点内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遊びや生活を通して主体性や自尊感情を育む 2. しなやかな体作りと豊かな表現活動から心と体を育てる 3. こ・保・小や地域との連携・つながりを持ち、学びや育ちをつなぐ 4. 保護者や家庭の状況を把握し、子どもの育ちを共有する 5. 職員 の 資 質 向 上 を め ぐ す
--

重点内容	重点内容に向けた具体策	評価項目	自己評価	こども園関係者評価	
遊びや自主性	・自主性や意欲を大切に、興味や関心がわくような遊びや生活の保障及び導入の工夫 ・子どもの発達に応じて活動が理解できる手立てや内容の工夫	・子どもたちの現状をしっかりと把握したうえで遊びの環境を構成する 「『やりたい』という思いが『実現した』と実感できるような導入や取り組み方法を考え教材準備をおこなう」 ・楽しかったことを友だちと共有し「またしよう!」という思いを次につないで遊びを終える ・ねらいに応じて、子ども同士が関わりを持ちやすい環境やグループ等の構成をする	A A B	・一人一人の姿にまずはしっかり寄り添いこどもの発達に応じた関わりができるように職員間で検討し教育保育をすすめてきた。イラストや絵カード、カレンダー、ホワイトボード等を使用することで見通しをもって過ごせるようになり、次の活動に期待を持つ姿になっている。 ・様々な遊びを通して友だちと協力することの大切さや楽しさを感じられるように関わってきたことで異年齢交流の中でも助けあったり一緒に過ごして遊ぶことが楽しいと感じる姿になっている。また相手を思いやる気持ちや異年齢への関わり方と一緒に遊ぶ中で身につけが豊かに育っている。	A A A
	・友だちとの関わりをくぐる中で自己肯定感を感じられる仲間づくりやクラス運営を行う	・発達に応じた伝え方で自分の思いを表現することの大切さを感じさせていく			
	・他クラスとの活動や異年齢交流を通して、相手の気持ちを知り、考えて関わり合おうと関わってもらえたことの嬉しさを体験し、心を豊かにしていく	・年齢発達のある中で活動であることを考慮し、生活や遊びを自然な形で取り組めるように環境構成をおこない、子ども一人一人の良さが見られるようにする ・年齢の違う友だちとの関わり心地よさを感じられるようにする			
豊かな心や表現を現す活動	・子どもの興味や関心、発達に応じて友だちと一緒に全身を使って遊び、体を使って遊ぶ楽しさを知る	・自然環境や社会環境を子どもたちが体で感じ取ることができるような場面設定を考える ・感じたことをその場で身振りや言葉で表現できる場を設定し、友だちと共有し楽しめるようにする ・楽しかったことを描画・歌・リズム楽器・制作・運動あそびなど多様な表現活動に展開する	B A	・リズム遊びやアートヨガ、散歩等を通して全身あそびに取り組み、体を使って遊ぶことが楽しいと感じている。また、折り紙や制作などの指先を使う遊びも年間を通して取り組んできたことで友だちや保育教諭と共有して楽しむ姿になっている。 ・子ども自身が興味関心を持ち、五感を使って経験できるように菜園活動や自然物を使っての活動等に取り組み、描画、表現遊び等を楽しみ姿になっている。	B A
	・実体験を基盤に自分の思いを表現したり、友だちと一緒にイメージを膨らませて遊ぶ経験を通して、豊かな表現につなげていく	・日々の実体験を基にした遊びの充実により、絵本やお話のイメージの共有につなげる ・行事の取り組みは、子ども同士が支え合って作り上げた達成感を感じられるように進める ・長期に取り組む教材は職員間で教材分析を行い子どもたちと読み取りが深まるような教材を選ぶ			
	・4園交流や小学校との計画的な教育・保育の交流と担任間の交流 ・行事の交流や授業見学や防災訓練等の協力を図る	・地域の教育保育施設の情報を職員間で共有し交流等を通して教育保育の質の向上につなげる ・小学校訪問や校庭使用、災害時を想定した避難訓練などを通して円滑な連携につなげる	A A	・おはなし会や地域の施設見学をさせてもらうなど地域との触れ合いを大切にできた。災害訓練を通して大阪ベイプラザホテルや小学校へ避難をさせてもらい地域の身近な施設を知ることが出来ている。4・5歳児は遠足で防災センターへ行き災害や防災について学び、毎月の災害訓練にもつなげることが出来ている。 ・5歳児の四園交流や小学校交流、布団太鼓も今年も見せてもらい地域との触れ合いを楽しむことが出来ている。 ・英彰サロンへ園庭開放のポラを配布し呼びかけてきたことで、園庭開放に来園する在宅家庭が後半増え、マイ保育園登壇にもつながっている。	A A B
し、保護者や家庭の育ちを共有する	・防災訓練やきりり教室等、地域活動への職員の積極的参加と園庭開放、育児講座、各教室子育て支援の発信 ・地域会館の方や地元ふとん太鼓や地域にある店舗訪問等を通して子どもたちが地域の方に支えられていることを実感できるようにする	・地域の取り組みに参加し、地域の方とのコミュニケーションを図る ・園の機能を発揮して地域のニーズを理解したうえで子育て支援をおこなう ・お店ごっこ見学やふとん太鼓の見学等地域の方との交流から地域に支えてもらっていることを実感できるような取り組みをおこなう ・取り組み内容を保護者や地域にフォトニュース等で伝えていく	A A B	・地域とのつながりを深める努力や積極的に取り組んでいると感じる。 ・実体験を通じた経験を今後もっと増やしていくとよい。	
	・散歩や公共施設・公園などを利用することを通して『堺』という街を知ろうとする	・園周辺の公園や様々な施設等豊かな環境を発達に応じた活動を通して『堺』に関心を持てるようにする			
	・保護者や家庭の状況を送迎時や個人懇談などを通して把握し、一緒に考えながら子育てしていく関係作りを進める	・子どもたちの育ちを把握するとともに多国籍など様々な環境下で生活している子どもや保護者に寄り添った子育て支援や発達支援をおこない信頼関係を築いていく	A A	・日々の送迎時を利用してこどもの姿を伝えたり、家庭での様子を把握し、ともに子育てをすすめていけるように取り組んできた。 ・外国籍家庭へは、翻訳機の使用や単語でゆっくりと伝えるなど保護者に合わせて対応し関係づくりを大事にした。おたよりも母国語で配信して園の様子がスムーズに把握できるようにした。 ・保育ドキュメンテーション(週に3回程度保育の様子写真も添えて)やフォトニュースの掲示を行い、活動の様子がイメージできるように取り組んでいる。	A A
職員	・日々の教育・保育内容が誰もがわかるような工夫を(フォトニュースやスライドショー、お便り、ふりがなや多言語訳)の明示に努める	・日々の教育保育内容に興味関心を持てるような形での発信をおこなったり、コミュニケーションを図りながら保護者のニーズや思いを理解し子どもの育ちに関心を持ってもらえるようにする	B A	・グループ研修や公開保育など研修に注力し学びあっている。 ・保護者にはわかりにくい部分であるが、常に伸びしろはあると感じるので、「もっとよい保育」を目指し、子どもたちに一層寄り添っていきとよい。	
	・年齢の教育保育内容の一貫性と年齢間の連続性について、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の力とともに検証する	・チームアップ研修や園内研修を主体的に取り組む質の向上を図る ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿についてこれまでの積み重ねを整理し専門性を高める			
	・園内の公開保育を実施し、教育保育の基盤となる人間関係についての学びを深める	・公開保育に積極的に取り組み、学ぶ視点を明確にする ・人間関係に重点を置いた意見交流をおこない、集団の視点で教育・保育の具体的実践を学びあう			

今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法	園長より
安定した気持ちの中で主体的にあそびや生活ができる環境づくりや異年齢交流を通してつながりを深める	一人一人の気持ちをしっかりと受け止め情緒の安定を図る。こども自身が興味関心をもって活動できるような環境づくりを園内研修で研究実践につなげる。こどもたちのわくわくドキドキ感や「これって何かな?」「どうしたらいいのかな?」の好奇心や意欲につなげていく。年齢保育だけでなく、異年齢交流にも取り組む中で主体的なあそびになるように実践を行う。	・情緒の安定を図ることを大切に、クラス保育・異年齢交流を通して、主体的に遊べる教育保育に取り組んできました。保護者の方にはアプリを通しての活動記録を確認していただき、送迎時の会話を大事にしてください。引き続き会話を大事にして保護者とのつながりを大切にしていきます。実体験を通して活動を意識し、地域との連携(堺のよさを感じる)を大切にするとともに、職員研修を重ね、よりよい教育保育になるよう取り組んでいきます。
様々な活動を通じたしなやかな体づくり	リズムあそび、アートヨガの継続や様々な運動遊具を使い、年齢にあった活動に取り組むことでしなやかな体づくりを行う。様々な活動を通して言葉のやりとりを楽しむなかで言葉や動作で伝えることの喜びを味わえるようにしていく。またしっかりと話を聞くことや姿勢など、保健指導や栄養指導等も通じて取り組んでいく。	・評価の基準 A・・・達成している B・・・おおむね達成している C・・・取り組みが不十分である